



# 明化の教育

9月号(第459号)  
平成30年9月3日  
文京区立明化小学校  
校長 溝畑 直樹

## 「協働」することのできる二学期に

校長 溝畑 直樹



7月に起こった西日本豪雨の被害に遭われた皆さまに、心からお見舞いを申し上げます。被災地の方々と共に、多くのボランティアがうだるような暑さの中、汗を流して瓦礫を片付けたり、泥を掻き出したりしていらっしゃる映像を何度も見ました。ボランティアの中には、中学生・高校生も多く見られ、彼らの懸命な姿に胸が熱くなるとともに、とても頼もしく感じました。被災地に、一日も早く平穏な暮らしが戻るよう祈ります。

夏休み中、校庭の埋蔵文化財調査を行いました。水泳指導期間の短縮や明化子ども広場の中止など、様々な場面でご協力をいただきありがとうございました。おかげさまで調査は無事終了し、校庭も元通りになりました。

さて、猛暑の夏休みが終わり今日から二学期の始まりです。始業式には、296名の子供たちの元気な顔がそろいました。この休み中、大きな事件・事故などに巻き込まれることもなく、皆が無事に過ごせたことに対し、保護者・地域のみなさまにまずもって感謝申し上げます。

みなさん、二泊三日の岩井での生活はどうでしたか。

僕は、500m耐久泳で、グループのみんなと励まし合いながら泳ぎ切れたことがとても心に残りました。僕たち明化小学校と誠之小学校のみなさんは、この大きな海と触れ合いながら共に生活しました。僕たちは最高学年であり、今年は小学校生活最後の年でもあります。ここで得た体験と友達との思い出をしっかりと心に刻み、岩井で学んだことを生かして、残りの小学校生活をがんばっていきましょう。

— 6年 男子児童 —

上の文章は、8月4日から2泊3日で実施された岩井臨海学校の最終日、一緒に行った誠之小と合同の「閉浜式」において、6年生Kさんが話した児童代表の言葉です。波の音にも浜辺の喧騒にも負けず、よく通る大きな声で堂々と話す彼の姿は大変頼もしく、岩井臨海学校の3日間が彼を一回り大きく成長させたことを感じました。言葉にある500mを励まし合って泳ぎ切れることは、その場にいる者が「同じ目的のために協力して働くこと」つまり、『協働』している姿です。似た言葉に『協同』がありますが、協同は役割分担などが事前に決まっている場合が多いのに対し、協働はそれぞれができること、得意分野のこゝろを行う場合に用いられます。そこでは、自分のよさが伸ばされるだけでなく、自分が周りの人のよさを引き出し、集団としてレベルアップすることがしばしばあります。耐久泳で言えば、一人ひとりの子供の真剣な取組が互いを刺激し合い、個人の力量以上の成果を生み出したということになるのでしょうか。

「協働によって自分と周りの人のよさを引き出す力」は、将来的にとっても大切な力になってくると考えます。本校の子供たちが様々な場面において自分の成長と同じように、友達の成長をも引き出し、互いの成長を実感し心から喜べる、そんな二学期にしていきたいと思ひます。今学期も本校の教育活動へのご理解、ご協力をどうぞよろしくお願ひいたします。

平尾悦子スクールカウンセラーが出産のためお休みに入ります。代替は、二之宮由美子(にのみや ゆみこ)スクールカウンセラーです。それに伴って相談日が以下の通り変更になりますので、ご承知おきください。

● 月曜日…二之宮スクールカウンセラー ● 火曜日…田島スクールカウンセラー